

3339 心模様：パリ取材から無事帰国

期間は1ヶ月。拠点は、パリの一番中心部で9区、初心者なら利便性抜群の地、アムステルダム通り、サン・ラザール駅とクリシー広場の中間点にある坂道のホテルに滞在。

9区は、マドレーヌ寺院やサン・ザラールやオペラの中のエリア。

パリの資料によれば、交通も店も多く、大通りはスリや物売りも多いとある。バスも2系統がホテル前を通る。雑多なエリアだが、少し入ると静かな通りにホテルがある。今回は、生のパリの日常を体感、取材するのが主目的。絶好の拠点と判断。

パリは初めてではない。経営者時代も何度か訪ねている。難点は、フランス語が話せない。

旅行業社には、3泊、ホテルを予約しておいてもらい、その後の状況判断で宿を決めることにしていた。連日、歩きと地下鉄を利用して、状況把握に時間をかけた。

外務省安全情報では、最近までパリは渡航自粛地域、旅のスタイルは、一人旅。諸状況を判断して、この拠点がベストと判断。1ヶ月の取材、無事帰国するのが最優先事項。

厳しい状況を何度も目撃、また体感、気を引き締めたのは言うまでもない。

渡仏前から「度胸があるね」と知人に言われた。

今回の取材目的は、夢でなく、世界の潮流や現実を体感することであり、何があっても覚悟しての一人旅。年末年始のパリにはその条件が揃っているのではないか。

結果として、取材成果として、メモ代わりの記録も含まれるが、約1万枚、画像取材できた。

いろいろな出会いや出来事、人生の第4四半期を面白くするための体感、気づきや身の程も痛感、前向きな対処方法、有意義な体験をして、無事帰国できたのが大収穫。

先のことはわからないので、まだまだとは言わないが、本人の心の奥底では、強い心が健在。

努力すれば、何とかかなりそうだとの感触も得た。気づきや知っていることとできるということは違う、ということも再確認。実践。

パリの概略、みなさんご存知のように、セーヌ河の流れが街を二つに分けている。

面積は、東京の山手線の内側とほぼ同じ。時計回りに 20 区、渦巻状に、数字が大きくなるほど中心から遠くなる。端から端まで、可能な限り、チャレンジした。

明るくなるのは午前 9 時、暗くなるのは午後 5 時。

傘を持たない日は数日、霧雨というか、日中も曇天がつづく。空気は最悪、薬局が多い。

中心部は、清掃車が早朝から、午後になるとゴミが散乱してくる状況。

観光客？ フランス人？ いささか美意識に疑問をもたざるを得ない。

人間を育む、水のある風景、光と風、美しい自然と程遠い目撃が多かったのには驚いた。

持参した、うがい薬が役立った。現実の印象。聞くと見るとは大違い。

石の文化、古い歴史を感じさせる街並みと近代的な建物の建つ新開発エリア、

パリは新旧両面を併せ持つ面白い、興味深い都市であることは確か。

いささか、冷めた視点での観察なので、厳しいかもしれないが、失望。表と裏がある。

パリの道は 5200 本あるという。Rue 普通の通り、Avenue 並木のある通り、

Boulevard 幅の広い大通り、Place 広場、Quai 河岸、Impasse 行き止まりの袋小路、

Passage や Allee 細い路地。車の通れない石畳の道。 画像は別の項目で。

坂道も多い。交通マナーが疑問、危険いっぱい。当初の夢、自転車での散策は断念。

歩きと地下鉄。これまでの訓練が役立った。朝食で会話した 2 人の日本女性、英から仏へ、短期でも足がパンパン。無駄でなかった日頃の訓練のおかげとあらためて確認。

おそらく、わき見をしながら、休み休み、ゆっくりだが、日々約 2 万歩。

ホテルの朝食は午前 7 時から、1 ヶ月、暗い内から、夜遅くまで外出、取材。

大晦日は、元旦午前 1 時ホテル帰着。コンサートや食事は暗くなってからが、パリでは普通。

体調の維持。食べるものの選択には苦勞。何しろ予算オーバー。

こんな状況の中で、日本へのハガキ約 300 枚、@1.3 ユーロ、物価が想定以上に高い。

冒険もしたが、安全への配慮、いささか想定外の出来事が続いた。

それだけに久楽的には収穫が大。時間も有効に使えた。忘れない多くの体験が積み重なった。